

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171000645		
法人名	医療法人社団 鼎会		
事業所名	グループホーム郡上八幡バラの家 (A棟)		
所在地	岐阜県 郡上市 八幡町 初音140-1		
自己評価作成日	平成25年7月10日	評価結果市町村受理日	平成25年10月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2171000645-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成25年8月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護福祉士・ケアマネジャー・看護師の資格を取得した職員が多数働いており、質の高い介護が提供できている。月に外科・内科・心療内科の往診があり、医療面で不安なく過ごすことができている。地域との交流にも力を入れており、幼稚園児の訪問・地域ボランティアの数も増えてきている。また、四季に合わせ地域の祭りやイベント(城下町花火・展示会等)・外出や外食の行事を取り入れ、楽しみを持って生活して頂けるよう工夫している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、職員に多数の有資格者を擁し、質の高いサービスを提供している。地域とも、馴染みの関係を深め、継続しながら、利用者一人ひとりが、地域社会の一員として、当たり前な生活が送れるように支援をしている。本人・家族の願いである、最期までその人らしく安心して暮らせるように、医療・看護の支援体制を整え、不安なく過ごせるようにしている。職員は、常に自己研鑽に努め、家庭にいるような温かい雰囲気、利用者の自立を支え、健康で笑顔の絶えない暮らしを提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場 がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らして いる (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生き とした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出か けている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね 満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安 なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスに おおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔 軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票(A棟)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所と地域との関係性を重視し、ここで暮らす一人ひとりが地域社会の一員として、住み慣れた地域の中でゆったり穏やかに過ごせるための支援を理念としている。管理者と職員はその理念を大切にしている。	地域社会の一員として、喜びと誇りを持てるように、利用者本位の理念を掲げている。本人の意思を尊重し、その人らしく生活できるように実践している。理念は、共用の場に掲示し、毎朝全員で確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃や祭りへの参加や協力をを行い、地域の一員として交流を図っている。また、中学生の体験学習の受け入れや児童の訪問そして各種ボランティアの参加も頂いている。	地域の一員として、清掃活動や祭りに参加している。地元ボランティア(日本舞踊・大正琴・手品・傾聴など)や中学生の体験学習受け入れ等、継続している。近隣とのつきあいも親密である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社会福祉協議会等の依頼があれば、一般の方を対象に認知症を理解して頂くための事業所見学会を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、家族や地域代表者、行政代表者のメンバーと災害時の対応や連絡、連携等話し合ったり家族の希望・要望を聞かせて頂き活かしていくための有意義な場となっている。尚25年度より郡上市の条例に基づき年3回の開催となった。	会議は定期に開き、サービスの内容と課題を話し合っている。今回より実施した、家族アンケートの結果を提示し、分析と検討を加えながら、今後のサービスに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員に利用者の思いを直接聞いて頂き助言を頂いたり、地域包括支援センターからの事業所訪問で意見交換をさせて頂いている。また、地域包括運営委員会の委員として参加している。	市が設置した、地域包括運営委員会の委員として、管理者が出席している。市の介護相談も毎月訪れ、サービス全般で、助言を得ている。運営課題は、その都度、相談できる関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一人ひとりが身体拘束となる行為を理解し、身体拘束をしないケアを行っている。玄関の施錠については、事務所に職員がいる時は20時の施錠としており、それまでは自由に入出入りできるようになっている。	身体拘束および虐待となる行為は、原則禁止として取り組んでいる。日中は、誰でも自由に入出入りできるように、玄関の鍵は開放している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、高齢者虐待防止について研修に参加したり、ミーティングで話し合う場を持ち、事業所内での虐待が見過ごされることがないように努めている。		

岐阜県 グループホーム郡上八幡バラの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援や成年後見制度が必要なケースは過去に一例あったが現在は無い。過去に研修には参加しているが経験が少なく支援できる体制が万全とは言えない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはホームのケアに関する考え方や取り組みについて説明をしている。また、起こり得るリスクや重度化に対する対応・方針・医療連携体制を説明し、ホームの対応可能な範囲について同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に出来る限り家族にも参加して頂き、全体的な話し合いや個別的な話し合いができるように心掛けており、要望等は職員ミーティングで話し合い反映させている。また、家族の率直な気持ちを引き出すためアンケートを実施した。	運営推進会議の機会や訪問時に、家族の意見、要望を聴いている。また、今年度より、年に1回の家族アンケートを実施した。帰宅願望への対応や献立表を知りたい等の要望があり、速やかに対処している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや新年会、忘年会など日頃からコミュニケーションを図ることにより、意見や要望を聞き出すように努めている。	症例(カンファレンス)の検討会や業務日誌の記録から、職員の意見や提案を確認している。さらに、食事会を設け、個人的な課題も話し合っている。ただし、運営全般を話し合う会議の設定は、計画の段階である。	会議の目的やルールを定め、職員からの意見や提案を検討するような、会議運営に期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価システムを取り入れ昇給や資格手当など各自が向上心を持てるよう職場条件の設備に努めているが、収入に限度があるため昇給等今後の見通しは明るくない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外での研修にはなるべく多くの職員が受講できるようにしているが、現在職員の体制にゆとりがなく研修に行ける機会が少ない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会を通じて、他施設との交流を図ると共に情報交換も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所希望者には施設内を見学して頂いている。また、事前に本人と面会し、状態・希望を聞くことで信頼関係を作るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所希望時に施設内の見学をして頂いている。また、要望・希望をお聞きしその要望に添えるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の面接で、本人や家族の思い・意見を聞かせて頂き、介護職員・看護師・ケアマネが話し合い、必要としている支援を見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者と一緒に作業をしたり会話をしたりする中で、互いに関われる時間を大切にし、安心して共に生活して頂けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状態・様子を月1回のお便りで報告している。本人からの希望、本人に変化があった時や伝えたいことがあるときは電話で連絡をとっている。面会・外出等無理のない範囲でお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの友人・知人が面会に来て下さる利用者には、居室でゆっくり一緒に過ごして頂いている。また、行きつけの美容院や自宅等へは家族と共に出かけて頂き馴染みの関係が途切れないよう支援している。	友人・知人の来訪を歓迎し、継続的な訪問を働きかけている。行きつけの美容院や買い物、絵手紙教室に出かけるなど、家族と協力して支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の昔からの人間関係、ご夫婦関係、現在の性格・嗜好・特技・互いの相性など把握に努め、より良い関係が保て、互いに楽しく生活できるよう職員が関わりながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時は次の住居(サービス)への情報提供(サマリー、TEL連絡)など行っている。また、契約終了後も他施設や病院等から依頼があればご本人に対する相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話から思いや意向を把握したり、困難な人は、表情や動作から思いを汲み取り、家族からも情報を得て一人ひとりの思いに寄り添うように努めている。	日々の生活の中で、思いや意向を把握している。帰宅願望の強い人には、思いに寄り添い、特技や趣味のある人には、活力を引き出して、生き生きと過ごせるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、一人ひとりの今までの暮らしや楽しみなどを、本人や家族から話を聞き情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中から、一人ひとりのできる力を観察し常に職員間で話し合っている。月1回のカンファレンスでさらに全体で話し合い、各自の残存能力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、全職員でモニタリングを行い、本人・家族の希望を取り入れ、本人がより良く暮らして頂けるためのケアプランになるよう努めている。	個々の状態を日々観察(モニタリング)し、職員の意見や、本人・家族の希望を反映した介護計画を作成している。変化があれば、関係者で話し合い、安心して楽しく生活できるように見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子、ケア実践、結果、気づき等を個別に介護記録に記入し、職員間で情報を共有しケアプランの見直しの参考にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り、本人・家族の希望に添えるよう職員間で話し合い、検討し柔軟に対応している。		

岐阜県 グループホーム郡上八幡バラの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防の協力による避難訓練・各種ボランティア(遊び相手ボランティア等)保育園児の訪問等、地域住民の方達の参加も頂き支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に利用者の受診状況を把握し、本人や家族の希望を確認し主治医を決めてもらっている。月に4回協力医の往診があり、多職種で連携を取り、適切な医療を受けることができるよう支援している。	本人や家族の希望で、法人の協力医(代表者)が、かかりつけ医となっている。定期及び随時の往診があり、職員の看護師(4名)と連携し、安心な医療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師職員を2ユニットに4人配置して、夜間帯も利用者の急変時等には連絡し指示を受けたり、健康管理や状態変化に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には利用者の生活や症状を書面にして情報提供している。また、病院のケースワーカーと施設のケアマネが情報交換し、退院許可が出た時は試験外泊を施行し施設での生活がスムーズに送れるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、主治医に相談し本人や家族と話し合い方針を決定している。	重度化・終末期の取り組みは、主治医と家族が話し合い決定している。他施設への移転を含め、家族の要望には、柔軟に対応できる体制を整えている。終末期支援のマニュアル化を検討している。	終末期支援の指針を作り、家族や関係者で共有するための、マニュアル化に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変、事故発生時に備え24時間対応で連絡できるよう全員に指示し、医療連携体制を取って事故発生時にはヒヤリハット、事故報告内容を提出し対策を検討している。また、急変時のマニュアルを作成し、初期対応、AED講習などを行い対応方法を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署や地域住民の協力を得て、夜間火災や地震を想定した避難訓練を年2回施行している。訓練を通し利用者の現状に応じた避難方法を確認している。災害時の備蓄は、保管場所の確保や食材の種類等問題があり、栄養士を含め相談中である。	地域住民と一緒に、災害訓練を実施している。夜間想定、通報、初期消火、避難誘導等を訓練している。備蓄は、品目や質、量を含めて算定し、準備を進めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや受容の気持ちを常に心がけ対応するよう努めている。また、個々の人格や生活歴を尊重し、誇りを損ねない言葉かけを行っている。そして、利用者が安心し落ち着くことができるよう受容の気持ちで対応している。	日々の会話で、誇りを損ねないように、言葉かけを行っている。個々の生活習慣や生活歴を尊重し、安心感がもてるように対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人とコミュニケーションを取る中で思いや希望を聞き出し、本人の思いを尊重して自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活に対する思いや希望を考慮しつつ、集団生活の中にもできる限り一人ひとりのペースで過ごせる様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定が難しい利用者には、職員が自己決定しやすい声掛けをしている。3ヶ月ごとに美容師が来所され散髪をして頂いている。また、行きつけの美容院へ行かれる利用者には、家族にお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎週木・日曜の朝食・夕食は職員と利用者が一緒に献立作りから行う調理の日と定め実施している。食材の買出しから下準備、配膳や片付けも楽しみながら行っている。	毎週、木曜日と日曜日の朝食と夕食は、利用者と一緒に調理する日と定めている。食卓の準備や片付けも楽しみながら行っている。個々の希望に応じ、朝にパン食を提供し喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養のバランスを考慮し管理栄養士や調理師が関わっている。また、利用者の食事摂取量を把握し、変化があった場合は医師や管理栄養士に報告や相談を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを行う際、職員は本人がどこまで出来るか理解した上で、個々に適した口腔ケアや清潔保持が出来るよう支援している。		

岐阜県 グループホーム郡上八幡バラの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	気持ちよくトイレで排泄できるように、声掛け・見守り・介助により自立を支援している。夜間数名がポータブルトイレを使用しており、一人ひとりのサインを把握し失敗の少ない支援を心掛けている。	トイレでの排泄が習慣となるように、自立を支援している。夜間は、センサー(鈴)で動きを感知したり、さりげなく声をかけ、個々の排泄パターンに合わせた介助に心がけ、失敗を減らしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や散歩など運動を随時行ったり排便を促す食材を食事に取り入れている。また、医師の指示による服薬コントロールも必要に応じて行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に3回入浴をしていただいている。順番のこだわりや拒否される利用者には気持ちを受け入れ、タイミングを見ながら柔軟に対応している。入浴中は介助の職員と会話を楽しんでいる。	週に3回、入浴日を設けている。重度者には、シャワー浴で代替し、拒否の人には、タイミングや誘導方法を工夫し、ゆったりとした気分で入浴ができるように支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣、体調に合わせて室温に気をつけて一人ひとりが必要な休息や睡眠をとれるように支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は看護師が保管庫で管理しており、1日分をセットし職員が確認し、利用者一人ひとりに手渡しと再度確認をして服用して頂いている。一人ひとりが服用している薬の目的や副作用などケースで確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントの中から生活歴や経験を把握し、一人ひとりにあった役割や楽しみ、気分転換を図れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物やドライブを楽しんで頂いたり、外での行事では家族の協力を得ながら安全に外出できるように心掛けている。季節の行事としてお雛様、春祭り、花火見学や桜、ぼたん園の名所へ職員と一緒に出かけている。	ホーム周辺を散歩し、買い物やドライブは、法人の車を使用したり、家族の協力も得て出かけている。各種の季節行事や道の駅の足湯、ぼたん園などへも年間計画の中で実施している。	

岐阜県 グループホーム郡上八幡バラの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は事業所で管理している。本人の希望があれば、買物や外出などでお金を所持し使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居間に電話があり本人が希望されるときは、いつでも電話がかけられるよう支援している。また、日常的に手紙や日記を書いて頂き年賀状や挨拶状も出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には、毎月利用者と職員が協力して作った季節感を取り入れたちぎり絵・カレンダー・花を飾ったり折り紙で作品を製作し壁に飾ったり、行事で撮った写真をコーナーを作り飾ったりと楽しんで頂き、居心地良く過ごせるよう工夫している。利用者が横になり寛いだり、談笑して思い思いに過ごせるよう畳のコーナーを設置している。	天井の梁は、極太の丸木材の造りで、豪華である。居間や通路には、季節感のある、ちぎり絵や折り紙作品が目立つように飾っている。利用者が書いた川柳や名言集もあり、居心地のよい空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には畳部屋やソファがあり、気の合った利用者同士が少人数で会話を楽しめるよう工夫したり、個々で思い思い過ごせるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具を持ち込んでいる。家族の写真や本人が作った作品、花を飾ったりして落ち着いて生活して頂けるよう本人好みの居室作りが出来るよう支援している。本人、家族と相談しテレビを設置している方もある。表札は手作りで自分の部屋を認識できるよう工夫している。	居室には、馴染みの家具やテレビ、時計を持ち込んでいる。家族の写真や、季節の花を飾り、落ち着いて過ごせるように配置している。表札も手づくりで、各部屋ごとに個別性を工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーであり、廊下・トイレや・呂場などには手すりが設置されており、安全に移動できる構造となっている。また、必要に応じて押し車をしようして頂き、転倒予防に努めている。居室のドアには名札や絵を貼り、自分の部屋を分りやすくする等して自立した生活が送れるよう支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171000645		
法人名	医療法人社団 鼎会		
事業所名	グループホーム郡上八幡バラの家 (B棟)		
所在地	岐阜県 郡上市 八幡町 初音140-1		
自己評価作成日	平成25年7月10日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成25年8月23日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票(B棟)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所と地域との関係性を重視し、ここで暮らす一人ひとりが地域社会の一員として、住み慣れた地域の中でゆったり穏やかに過ごせるための支援を理念としている。管理者と職員はその理念を大切にしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃や祭りへの参加、協力をを行い、地域の一員として交流を図っている。また、中学生の体験学習の受け入れや児童の訪問そして各種ボランティアの参加も頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社会福祉協議会等の依頼があれば一般の方を対象に認知症を理解して頂くための事業所見学会を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、家族や地域代表者、行政代表者のメンバーと災害時の対応や連絡、連携等話し合ったり家族の希望・要望を聞かせて頂き活かしていくための有意義な場となっている。尚25年度より郡上市の条例に基づき年3回の開催となった。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員に利用者の思いを直接聞いて頂き助言を頂いたり、地域包括支援センターからの事業所訪問で意見交換をさせて頂いている。また、地域包括運営委員会の委員として参加している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一人ひとりが身体拘束となる行為を理解し、身体拘束をしないケアを行っている。玄関の施錠については、事務所に職員がいる時は20時の施錠としており、それまでは自由に出入りできるようになっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、高齢者虐待防止について研修に参加したりミーティングで話し合う場を持ち、事業所内での虐待が見過ごされることがないように努めている。		

岐阜県 グループホーム郡上八幡バラの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援や成年後見制度が必要なケースは過去に一例あったが現在はない。過去に研修には参加しているが経験が少なく支援できる体制が万全とは言えない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはホームのケアに関する考え方や取り組みについて説明をしている。また、起こり得るリスクや重度化に対する対応・方針・医療連携体制を説明し、ホームの対応可能な範囲について同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に出来る限り家族にも参加して頂き、全体的な話し合いや個別的な話し合いができるように心掛けており、要望等は職員ミーティングで話し合い反映させている。また家族の率直な気持ちを引き出すためアンケートを実施した。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや新年会、忘年会など日頃からコミュニケーションを図ることにより、意見や要望を聞き出すように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価システムを取り入れ昇給や資格手当など各自が向上心を持てるよう職場条件の設備に努めているが、収入に限度があるため昇給等今後の見通しは明るくない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外での研修にはなるべく多くの職員が受講できるようにしているが、現在職員の体制にゆとりがなく研修に行ける機会が少ない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会を通じて、他施設との交流を図ると共に情報交換も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面接にて施設内の見学や本人と話をすることで、困っている事や不安や要望などに耳を傾けながら本人との信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面接で家族にも施設内の見学をしてもらい、家族の現在困っていること・不安・施設への要望など聞きその希望に添えるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の面接で本人や家族の希望・要望を聞き、ケアマネ・看護師・介護職員で話し合いをして、必要としている支援を見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は暮らしを共にする者として、利用者と一緒に作業したり、利用者の話に耳を傾け、互いに関わる時間を大切に、安心して共に生活して頂ける様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状態や様子を月一回のお便りで家族に報告。本人からの希望や状態変化時には電話連絡し対応している。家族の無理の無い程度で面会や外出をお願いをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人が面会に来所された時は、本人の居室でゆっくり話ができる様に支援している。また、職員と一緒にドライブへ行ったり、家族をお願いをして美容室や喫茶へ外出などされている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や他の利用者との相性など把握に努め、より良い関係を保ち利用者同士が関わり合い支え合い楽しく生活できる様に支援している。		

岐阜県 グループホーム郡上八幡バラの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時は次のサービスへの情報提供(電話・連絡、サマリー)を行なっている。また契約終了後も依頼があれば相談や支援を行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人の希望や意向に添えるように努めている。困難な場合は職員間で話し合い家族に相談や協力をお願いしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、本人のこれまでの暮らしや楽しみなどを本人や家族から聞いて情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で個々有する力を見極め、月一回のカンファレンスで職員間で情報共有している。また、毎日の生活の中で把握し、残存能力の活用に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者一人ひとりに担当職員をつけ、本人の希望や家族の要望を聞いてカンファレンスで話し合い、本人に合ったケアプランづくりに努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子・本人の言動・行動・ケア実践・結果・アドバイスなどを介護記録に記入することにより、職員間での情報共有やケアプランの見直しに活かせる様に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状態や家族の希望に応じその都度、職員間で話し合い対応に努めている。		

岐阜県 グループホーム郡上八幡バラの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防の協力による避難訓練・各種ボランティア(遊び相手ボランティア等)・保育園児の訪問等地域住民の方達の参加も頂き支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に利用者の受診状況を把握、本人や家族の希望を確認し主治医を決定している。また、主治医による定期的な往診なども行い支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師職員を2ユニット4人配置して夜間帯、利用者急変時等には連絡し指示を受けたり、健康管理や状態変化に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には利用者の生活状況、及び状態を文章にして提供している。また、病院のケースワーカーと施設が情報交換し退院許可が出たらバラでの生活がスムーズに送れるよう心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、主治医に報告、相談し、本人や家族と話し合い方針を決定している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変、事故発生時に備え24時間対応出連絡できる様、全員に指示し医療連携体制を取って事故発生時にはヒヤリハット、事故報告内容を提出し対策を検討。また急変時のマニュアルを作成し初期対応、AED講習など定期的な受け対応方法を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署や地域住民の協力を得て、夜間火災や地震を想定した避難訓練を年2回施行している。訓練を通し利用者の現状態に応じた避難方法を確認している。災害時の備蓄は、保管場所の確保や食材の種類等問題があり、栄養士を含め相談中である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けをするよう努めている。また、利用者が安心して生活が送れるよう受容、傾聴に努め、その人らしい生活ができるよう支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者、コミュニケーションを取る中で利用者の思いや希望を聞き出し自己決定出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活に対する思いや希望を聞き、一人ひとりのペースに合わせるよう支援に努めている。また集団生活の中でも出来る限り本人の意思を尊重し、希望に添うよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた身だしなみやおしゃれが出来るよう支援している。3ヶ月ごとに、美容師に来所してもらいカットしてもらっている。行きつけの美容室を希望される利用者は、家族に付き添ってもらい整髪に行かれる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や配膳、食器洗いを利用者の残存能力を活用しながら職員と一緒にやっている。昼食には、職員も利用者のテーブルと一緒に座り楽しく会話しながら食事をしている。また、週4回利用者の好みや希望に合わせた献立を立て、出来る限り食べ残しがないよう工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養のバランスを考え管理栄養士や専門調理師が関わっている。また、食事摂取量や水分摂取量を把握し、変化があった場合は主治医や管理栄養士に報告・連絡・相談をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者一人ひとりの状態や残存能力を把握したうえで、個々に適した口腔ケアや清潔保持ができるよう支援している。		

岐阜県 グループホーム郡上八幡バラの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は、個々のできる力を見極め、声掛け・見守り・一部介助を行っている。また、個々の様子を観察することで、排泄パターンを把握し失敗の少ない支援に心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的な水分補給で、利用者の状態に合わせてオリゴ糖を使用したり、体操や散歩などを随時行っている。また、希望される利用者にはヤクルトを飲んでもらったり、医師の指示により服薬コントロールも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴をローテーションで行っている。利用者の体調を考慮したり、順番のこだわりや拒否される利用者にはタイミングを図り柔軟に対応している。入浴中は職員との会話も楽しんでいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や体調に応じて休息したり、換気や室温に気を配り気持ちよく過ごせるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬のファイルを作成して、服薬している薬の目的や副作用など確認できるようにしている。内服時は名前と日時を確認し、一人ひとり手渡しし再度確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントや日々の生活の中から生活歴や経験を把握し、一人ひとりに合った役割や楽しみ・生きがい・気分転換が図れるよう支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や日光浴、買物、喫茶店、希望があれば自宅まで職員が車で送迎したり、外出・行事・定期的な外出など家族の協力を得て行っている。買物、喫茶店へ行き地域の方と交流したり、ドライブなどで気分転換も図っている。		

岐阜県 グループホーム郡上八幡バラの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望で自分で金銭を管理している利用者もあり、新聞代等の支払いも本人がされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話があり、本人が希望されればいつでも電話を掛けていただけるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と一緒に制作した季節の作品を居間や居室廊下に飾っている。また、掲示板に行事の写真を貼り楽しんでもらっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前に椅子を置き、仲の良い利用者同士話をしながら、日光浴や気分転換を図り利用者のくつろぎの場となっています。居間にもソファがあり、歌を唄ったり、話をされて過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や季節の塗り絵を飾り、部屋が明るくなるようにしている。また、家具を持ち込まれ、自宅に近い空間作りをされ過ごしている利用者もみえる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、バリアフリーで廊下や浴室トイレには手すりが設置されており、安全に移動できる構造となっている。また、トイレ・風呂場・居室を判りやすくするため、名札や絵等で表示している。		